事例報告

デモンストレーションとしてのスポーツ行事に見る国体のスポーツレガシー[†]

関 本 ゆ う* 木 村 和 彦**

Is the Demonstration Program the Legacy of
the National Sports Festival?[†]

Yu SEKIMOTO* and Kazuhiko KIMURA**

Abstract

The demonstration program, one of the sports events of the National Sports Festival, has been held by the municipalities of the hosting prefectures every year for the residents. In this program there have been many kinds of new sports events, such as Ground Golf, Indiacca, Petanque, and others. We focused on these programs, explaining the existence of sports legacies of the National Sports Festival and clarifying the types of these legacies. In order to do so, we investigated the changes that have taken place before and after in the activities of the new sports in almost all the demonstration programs which were held from 1996 to 2005.

As a result, it became clear that sports legacies continue to exist in the hosting municipalities (22.1%), and that those legacies can be classified generally into the following 4 types.

- a) Municipalities where the new sports' activities were started by holding demonstration programs (9 cases).
- b) Municipalities where the new sports' activities were started by holding demonstration programs and new associations or groups of the new sports were organized after holding the demonstration programs (8 cases).
- c) Municipalities where activities related to the new sports already existed and after holding the demonstration program some associations or groups of the new sports were integrated or readjusted (10 cases).
- d) Municipalities which started to hold new sports events after holding the demonstration program (11 cases).

Key words : Event Legacy, Sports Events, National Sports Festival, Demonstration Program

1. 結 言

現在, 地域活性化を目的として全国各地でス

ポーツイベントが盛んに開催されている。こういったイベントの開催については, 効果の一過性やハード先行性などといった問題点が指摘さ

[†]原稿受付 2009 年 12 月 8 日

* 早稲田大学スポーツ科学研究科 〒202-0021 東京都西東京市東伏見 2-7-5

** 早稲田大学スポーツ科学学術院 〒202-0021 東京都西東京市東伏見 3-4-1

* Graduate School of Sport Sciences, Waseda University, 2-7-5, Higashifushimi, Nishitokyo, Tokyo, Japan (202-0021)

** Faculty of Sport Sciences, Waseda University, 3-4-1, Higashifushimi, Nishitokyo, Tokyo, Japan (202-0021)

れる一方で、スポーツイベントが開催都市にもたらす遺産、すなわち“スポーツレガシー”に期待がよせられる。特に、国際レベルや全国レベルのメガ・スポーツイベント開催によって開催都市や地域にもたらされるスポーツレガシーは、施設などのハード面の整備・充実からツーリズムに絡んだ経済効果、地域スポーツへの参加喚起やあるいは交流等による個人的な豊かな経験・思い出までと多岐にわたる¹⁾。

しかしながら、わが国有数のメガ・スポーツイベントである国民体育大会（以下、国体と略す）に対しては長年批判が相次ぎ、特に全国都道府県持ち回り方式であることによる地方の財政負担や、大会運営の肥大化、トップアスリートの不参加などが指摘され、国体の果たす役割や開催そのものに対して疑問の声が上がっている^{1)~3)}。もちろん、主催者側も改革に取り組んでおり、2003年には「大会の充実・活性化」と「大会運営の簡素・効率化」を二本柱とした「国体改革 2003」をまとめている⁴⁾。また、日本体育・スポーツ政策学会では2006年に「国体の今後のあり方」というテーマでシンポジウムが開催される⁵⁾など、今後国体が果たすべき役割について議論がなされている。

ところで、現在の国体は、陸上競技や水泳、スケートなど40競技からなる「正式競技」と、高等学校野球やビーチバレーなど3競技からなる「公開競技」、そして開催地の居住者を対象に実施されている「デモンストレーションとしてのスポーツ行事（以下デモスポ行事と略す）」から構成されている。デモスポ行事で取り扱われる競技は比較的競技性の低いスポーツや軽スポーツなど、いわゆるニュースポーツと呼ばれる競技であることが多く、開催都道府県によっては、一市町村一スポーツ事業精神のもと、各市町村が何らかのスポーツを担当しなくてはならない場合もあるため、もともと地域に普及し市民に親しまれていたニュースポーツを開催したり、あるいは全く普及していない新しい競技の開催を選択し、本番に備えて数年前から普及活動に努めたりといった、様々なケースが見受

けられる。

これまでの国体に関する研究としては、開催地住民の意識に注目し、開催3年前、1年前、1年後の3回に渡って調査を行い、国体に対する住民意識の時系列変化を分析した岡本ら^{6)~8)}の一連の研究や、同じく開催地住民の意識に注目し、国体開催内定時期における住民の国体に対する関心が、応援志向や地域への関心の有無に規定されることを明らかにした仲野ら⁹⁾の研究がある。また、原田ら¹⁰⁾は、2巡目を迎える転換期にあった、沖縄・京都・北海道の3国体に焦点をあて、国体に対する評価や開催地住民の意識を比較することによって、今後の国体のあり方や果たすべき新たな役割について指摘している。これらの他にも、競技施設整備や施設運営に関して報告した赤荻ら¹¹⁾の研究などがある。

しかしながら、国体開催によってどのようなスポーツレガシーが開催地にもたらされたか、その実態を明らかにした研究はなく、特に施設の建設や改修という目に見える顕著な成果（ただし、国体後の施設の維持・運営については問題が提唱されている）以外で、実際にどのようなスポーツレガシーがもたらされているかについては依然不明のままとなっている。では、国体開催によるスポーツレガシーは全く存在しないのだろうか。例えば、デモスポ行事は開催地住民を参加対象としており、またニュースポーツを扱うことから、開催地住民が新たに開催対象スポーツを行うようになるといった変化がもたらされていることも予想される。

そこで本研究では、国体が2巡目に入った1988年から、各国体開催都道府県にて居住者を参加対象に開催されているデモスポ行事に着目し、「デモスポ行事開催を経ることによって、開催対象スポーツに関する何らかのプラスの変化が、開催市町村にもたらされている」と予想した。そして、それらの「何らかのプラスの変化」の実態を明らかにすることで、各市町村におけるスポーツレガシーの有無及び実態、ひいては国体開催によるスポーツレガシーの一端を

明らかにすることを目的とした。

2. 研究方法

本研究では、1996年～2005年の10年間にデモスポ 행사를開催した市町村を対象として、デモスポ行事開催担当者に電話調査を行った。

調査期間は、2006年11月7日～12月14日で、平成の大合併によりその後名称が変更となった市町村についても可能な限り追跡したが、当時の担当者の退職などを理由に当時の状況がわからず調査不可能なものもあった。その結果、調査の対象となった全179件（全151市町村、競技63種目）のうち、得られた有効回答数は172件であった。

調査内容は、デモスポ行事開催対象スポーツに関して、1) デモスポ行事開催以前の活動の有無とその詳細、2) デモスポ行事開催を契機に開始された活動の有無とその詳細、3) デモスポ行事開催後の活動状況、である。

分析方法は、上述の172例から、デモスポ行事開催を契機として、今後開催対象スポーツを行うための参加機会の場や環境が整備・構築されたケースを抽出し、デモスポ行事開催前後の変化の内容によってカテゴライズした。さらに、各カテゴリの特徴的事例を詳しく紹介し、今後も類似したケースが生じた場合に同様の効果が得られる可能性を検討した。

3. 結 果

調査の結果、デモスポ行事開催を経ることによって、開催後の活動基盤となる組織の設置やイベントの開催など、今後開催対象スポーツを行うための参加の機会や環境が整備・構築された市町村が38件（22.1%）存在することが明らかとなり、さらに開催前後における変化の特徴によって以下の4つのカテゴリに区別できることがわかった（表1）。

- a) デモスポ行事開催を契機に、開催対象スポーツの活動が行われるようになった市町村〔計9件〕
- b) デモスポ行事開催を契機に開催対象スポー

ツの活動が行われるようになり、また競技団体や今後の活動基盤となる組織が設立された市町村〔計8件〕

- c) デモスポ行事開催前から開催対象スポーツの活動は見られたものの活動の基盤となる組織がなかったが、デモスポ開催を契機に競技団体や活動基盤となる組織が設立あるいは統合、整備された市町村〔計10件〕
- d) デモスポ行事開催後に新たに開催対象スポーツのイベントを行うようになった市町村〔計11件〕

ただし、カテゴリ(b)については、デモスポ行事を開催した時点から本調査を行った2006年の間に、組織（協会や連盟など）が設立されたところを該当市町村としたため、例えば、デモスポ行事開催に向けて事前に組織を設立した市町村や、デモスポ行事開催に合わせて開催対象スポーツの普及を行った結果、競技人口が増加したのを受けて数年後に組織を設立した市町村など、組織設立の段階は各市町村によって異なる。

また、カテゴリ(d)については、例えば、元々地域で盛んに活動が行われている上に新たにイベントを行うようになった市町村や、あるいは普及状況は把握していないが、とりあえず記念にイベントを行っている所などがあり、各市町村における開催対象スポーツの普及状況は異なっている。

では、以上4つのカテゴリから、代表的な事例を以下の通り紹介する。

a) デモスポ行事開催を契機に、開催対象スポーツの活動が行われるようになった市町村

静岡県土肥町（現伊豆市）では、2003年NEW!! わかふじ国体のデモスポ行事にてグラウンド・ゴルフ大会を開催した。回答によると、デモスポ行事開催以前には町内におけるグラウンド・ゴルフの活動はなく、デモスポ行事開催後から活動が見られるようになり、普及し始めたという。なお、回答者の見解では、ゲートボー

ルからグラウンド・ゴルフへと競技者が移行したのではないかとのことであった。2006年時点では、特に高齢者が毎日活動している状態であり、特に行政が主導せずとも自らスポンサー（地元の商店街や商工会、銀行など）を探して大会を開いているという。

b) デモスポ行事開催を契機に開催対象スポーツの活動が行われるようになり、また競技団体や今後の活動基盤となる組織が設立された市町村

2000年とやま国体にてデモスポ行事を開催した富山県下村（現射水市）では、デモスポ行事開催の決定を機にパークゴルフ場を整備し、活動の基盤となる団体としてパークゴルフ協会を設立した。回答によると、開催後も活動を継続し、2006年時点での競技人口は富山県全体では増加傾向に、人口2,000人の下村では横ばい傾向にあるという。活動の内容は主にイベント開催であり、北陸三県で男女ペア400人規模の大会を開くほか、北日本新聞主催の大会や春・秋には県の選手権大会、そしてグランドチャンピオン大会なども開催しているという。平成の大合併にて小杉町と合併し現射水市となったが、小杉町でも同じくパークゴルフに力を注いでいたため、“富山県射水市”としてパークゴルフの活動に今後も力を入れていく予定であるとのことであったが、実際に、2007年には射水市にて全国パークゴルフ交流大会が開催されている。

c) デモスポ行事開催前から開催対象スポーツの活動は見られたものの活動の基盤となる組織がなかったが、デモスポ開催を契機に競技団体や活動基盤となる組織が設立あるいは統合、整備された市町村

大阪府高石市では、1997年なみはや国体のデモスポ行事でキックベースボール大会を開催した。回答によると、デモスポ行事開催に関係なく以前からキックベースボールの普及活動を行っていたようで、具体的には、市のキックベー

スボール連盟が大会を年に3回実施し、また市内の各小学校において競技活動講習会を月に2回開いていた。しかし、キックベースボールのルールが大阪府下において団体ごとに異なっていたことから、デモスポ行事開催に向けて、異なっているルールを統一すべく各団体の代表者にて構成した大会競技会を作り、その後、その構成員を中心に大阪府キックベースボール協会を設立したそうである。

デモスポ行事開催後も、同協会が大阪府民スポーツレクリエーションフェスティバルの一競技として年に1回「選手権大会」を実施し、ルール講習会を開くなどして、同大会を通して府下におけるルールの一本化を図っているという。市の活動としては、1999年に高石市体育協会に加盟し、年に8回の大会を開催し、また子ども会でも大会を開催するなどして、キックベースボールの普及活動に努めているとのことであった。

d) デモスポ行事開催後に新たに開催対象スポーツのイベントを行うようになった市町村

1996年ひろしま国体のデモスポ行事にてソフトバレーボール大会を開催した広島県大朝町（現山県郡北広島町）は、元々バレーボールが盛んな町であったが、デモスポ行事ではニュースポーツを取り扱うということで、ソフトバレーボールの開催を決定した。回答によると、デモスポ行事開催後には、国体記念事業として毎年4月に「96ひろしま国体記念大朝ソフトバレー交流大会」を開催し続けているという。参加人数としては、コート数に制限があり募集チーム数も限られてしまうため横ばいであるが、大会には選手が約250～260人、役員を含めると約300人が毎年参加しているとのことであった。また、毎年8月にはジュニア育成を目的として小学生対象の大会を1997年から開催しているという。

4. ま と め

本研究では、今まで明らかにされなかった国

表 1 デモスポ行事のスポーツレガシーとしてのスポーツ環境変化

(デモスポ行事開催を経ることによって、開催後の活動基盤となる組織の設置やイベントの開催など、今後開催対象スポーツを行うための参加の機会や環境が整備・構築されていることがわかった)

a) デモスポ行事開催を契機に、開催対象スポーツの活動が行われるようになった市町村			
開催年	開催市町村	開催対象スポーツ	変化の内容
2003	静岡県芝川町	少年少女スポーツ (スポーツチャンバラ)	職員が指導員となって教室を始めた。現在、クラブを組織し、週に1度練習を行っている
2003	静岡県雄踏町 (現浜松市)	インディアカ	デモスポ行事に合わせて普及し、現在は地区で自主的にサークル活動を行っている
2003	静岡県土肥町 (現伊豆市)	グラウンド・ゴルフ	デモスポ行事開催スポーツにグラウンド・ゴルフを選択し、普及した。ゲートボールからグラウンド・ゴルフへと競技者が移行したようで、特に高齢者は毎日のように活動している
2002	高知県吉川村 (現香南市)	バウンドテニス	バウンドテニスの活動が始まり、現在は愛好会クラブが毎週練習を行っている
1999	熊本県三加和町 (現玉名郡和水町)	ベタンク	デモスポ行事を契機に爆発的に普及し、現在では小学生から高齢者まで、未経験者がいないほど普及している
1998	神奈川県大磯町	綱引き	発足した活動を商工会が引き継ぎ、現在も活動している
1998	神奈川県松田町	パワーリフティング	行政従事者や町民で構成されたパワーリフティング部を設立し、現在も引き続き練習を行っている
1997	大阪府摂津市	インディアカ	インディアカが広まり、2006年時点ではレクリエーション協会にてインディアカクラブが集結して活動している
1996	広島県豊松村 (現 神石郡 神石高原町)	ソフトバレーボール	デモスポ行事開催後3～4年はソフトバレーボールのメモリアル大会を開催していたが、中止となった。デモスポ行事開催を受けて普及し盛んになった活動は、今もそれを継続中である
b) デモスポ行事開催を契機に開催対象スポーツの活動が行われるようになり、また競技団体や今後の活動基盤となる組織が設立された市町村			
開催年	開催市町村	開催対象スポーツ	変化の内容
2001	宮城県志波姫町 (現栗原市)	グラウンド・ゴルフ	デモスポ行事開催に伴い普及活動を行い、開催後には、みやぎ県北グラウンド・ゴルフ志波姫大会を開いている
2000	富山県下村 (現射水市)	パークゴルフ	パークゴルフ場を整備し、パークゴルフ協会を設立した
1997	大阪府泉大津市	綱引き	運動会で行うくらいの認識であったが、デモスポ行事開催を機に、綱引き連盟を設立した
1997	大阪府貝塚市	ソフトバレーボール	市のバレーボール連盟の中に新たにソフトバレーボール分野を設立し、教室を開催するようになった
1997	大阪府太子町	インディアカ	インディアカが広まり、現在はインディアカ協会が大会を開くなどして活動している
1997	大阪府寝屋川市	バウンドテニス	開催に向けてバウンドテニス指導者資格を市の職員が取得し、講習会を開くほか、バウンドテニス協会を設立した
1997	大阪府箕面市	ベタンク	デモスポ行事開催を機に箕面市ベタンク協会を立ち上げた。現在も地域の友好や小学校クラブ活動の一環として様々に活動している

1996	広島県戸河内町 (現山県郡安芸太田町)	グラウンド・ゴルフ	デモスポ行事開催を契機に普及し、2年後にはグラウンド・ゴルフ協会を立ち上げた
c) デモスポ行事開催前から開催対象スポーツの活動は見られたものの活動の基盤となる組織がなかったが、デモスポ開催を契機に競技団体や活動基盤となる組織が設立あるいは統合、整備された市町村			
開催年	開催市町村	開催対象スポーツ	変化の内容
2004	埼玉県吉見町	グラウンド・ゴルフ	グラウンド・ゴルフ協会を立ち上げ、国体記念グラウンド・ゴルフ大会を開催している
2004	埼玉県川里町 (現鴻巣市)	グラウンド・ゴルフ	競技の普及が進んだことを背景に、デモスポ行事開催を見据えてグラウンド・ゴルフ連盟を立ち上げた
2002	高知県中土佐町	女性スカッシュバレー	以前から活動はあったが、各市町村のルールで活動していた。デモスポ行事開催を契機に連盟が立ち上がり、今も連盟で活動している
2001	宮城県牡鹿町 (現石巻市)	ウォーキング	ウォーキング愛好者の急増を受け、ウォーキング友の会を設立した
1999	熊本県城南町	グラウンド・ゴルフ	デモスポ行事開催前から大会など普及は始めていたが、開催前年にグラウンド・ゴルフ協会を立ち上げ、現在も定期的に練習会や大会を行っている
1997	大阪府 大阪狭山市	少年少女スポーツ (バスケットボール)	もともと地域等で小さく活動はあったがデモスポ行事開催を契機に普及した。デモスポ行事開催後に任意の実行委員会を作り、小学生対象のバスケットボール大会を開催している
1997	大阪府交野市	武術太極拳	指導者を中心に同好会を発足していたが、デモスポ行事開催を機に、太極拳協会を設立した
1997	大阪府高石市	キックベースボール	府下において団体によって異なっていたルールを統一し、その後キックベースボール協会を設立した
1997	大阪府豊中市	グラウンド・ゴルフ	特に組織はなく個別に活動していたが、デモスポ行事開催を機にグラウンド・ゴルフ協会を設立した
1996	広島県大柿町 (現江田島市)	ビーチバレー	デモスポ行事開催を機に盛んになったことを受けて、大柿町の体協の中にビーチバレー専門の部を作った。その後毎年大会を開催している。現在は合併により四町が合体しビーチバレー協会ができています
d) 開催対象スポーツの普及に関して特に変化は見られなかったが、デモスポ行事開催後に新たに開催対象スポーツのイベントを行うようになった市町村			
開催年	開催市町村	開催対象スポーツ	変化の内容
2005	岡山県吉備中央町	ウォークラリー	ウォークラリー大会を開催している
2005	岡山県総社市	ウォーキング	吉備路ウォーキング大会を開催している
2004	埼玉県美里町	綱引き	児玉郡市綱引き選手権大会を開催している
2003	静岡県舞阪町 (現浜松市)	ベタボード	国体記念としてベタボード大会を開催している
2001	宮城県田尻町 (現大崎市)	パークゴルフ	国体記念デモンストレーションスポーツ杯大会を、国体時に運営を行っていたグラウンド・ゴルフ協会が毎年開催している
2001	宮城県石越町 (現登米市)	ペタンク	国体記念としてみやぎ国体開催記念杯ペタンク大会を開催している

2001	宮城県北上町 (現石巻市)	少年スポーツ (剣道)	国体記念として剣道大会を開いていた (その後中止)
2001	宮城県丸森町	ウォークラリー	丸森ウォークラリー大会を開催している
1997	大阪府池田市	ラージボール卓球	デモスポ行事開催を契機に、市長杯と合わせてなみはや国体のメモリアル大会とし、初年度から卓球協会を中心として開催している
1997	大阪府豊能町	混成駅伝	記念行事として妙見山岳マラソン大会を開いていた (その後中止)
1996	広島県大朝町 (現山県郡北広島町)	ソフトバレーボール	元々バレーボールが盛んだったことを受けて、ソフトバレーボールをデモスポ行事開催スポーツに選択した。毎年4月には国体記念事業として、96ひろしま国体記念大朝ソフトバレー交流大会を翌年から毎年開催している

体によるスポーツレガシーの一端を明らかにすべく、国体が2巡目に入った1988年から開催されているデモスポ行事に着目し、デモスポ行事開催を経ることによって開催市町村にもたらされた、開催対象スポーツに関する「何らかのプラスの変化」の有無と、その詳細を明らかにすることを目的として調査を行った。その結果、デモスポ行事開催を経ることによって、開催後の活動基盤となる組織の設置やイベントの開催など、今後開催対象スポーツを行うための参加の機会や環境が整備・構築されるというプラスの変化が、10年間で38件(22.1%)の開催市町村にもたらされていることが明らかとなり、ここから、デモスポ行事開催によるスポーツレガシーが少なからず存在していることがわかった。

また、分析の結果、上述のプラスの変化が①開催対象スポーツのゼロからの普及 ②開催対象スポーツのゼロからの普及及び競技団体や組織の設立・整備 ③既存の活動状況を踏まえた競技団体や組織の設立・整備・統合④普及状況に関係なくイベントが開催される、という大きく4つのカテゴリに分けられることがわかった。デモスポ行事開催前の開催対象スポーツの普及状況によらず、開催後も継続して活動が行われていることから、今後のデモスポ行事開催においても各事例に見られるような活動継続の努力を行うことで、デモスポ行事開催を誘因とした同等のスポーツレガシーを期待できると考

えられる。

もちろん、デモスポ行事の開催前後で特に変化がなかったと答えた市町村についても、開催対象スポーツの認知度が上がったり、あるいは開催に向けた準備の中で得られた連帯感によって地域でのコミュニケーションが円滑になったりといった、何らかのスポーツレガシーが得られたものと考えられる。しかしながら、調査の性質上おおまかな情報収集・分析にとどまってしまったため、明確な結果を得られなかった。また、本研究では、国体の中のデモスポ行事というひとつの側面にのみ焦点を当てたため、国体開催から得られるスポーツレガシーの一端を明らかにしたにすぎない。よって、国体開催によってもたらされるスポーツレガシーを明らかにするためには、今後よりいっそう多角的及び詳細な調査を行う必要があるだろう。

参 考 文 献

- 1) 原田宗彦; スポーツイベントの経済学—メカイイベントとホームチームが都市を変える, 平凡社新書, 2002.
- 2) 木原啓二; 経済政策情報『国民体育大会』の役割は既に終わっている, 経済界, 39(23), pp. 68-69, 2004.
- 3) 原田宗彦, 他; 国民体育大会がスポーツ振興とまちづくりに及ぼす影響と役割について(2): 都市のマーケティングの視点から (体育経営管理), 日本体育学会大会号, p.398, 1998.
- 4) 財団法人日本体育協会ホームページ (<http://>

//www.japan-sports.or.jp/).

- 5) シンポジウム 国民体育大会の今後のあり方 (日本体育・スポーツ政策学会 第15回学会大会報告), 日本体育・スポーツ政策研究, 15 (1), pp.27-43, 2006.
- 6) 岡本進, 他; 国民体育大会の支援的態度を規定する要因について, 日本体育学会大会号, p.211, 1980.
- 7) 岡本進, 他; 国民体育大会に対する意見と行動の変化 (第1報), 日本体育学会大会号, p.210, 1981.
- 8) 岡本進, 他; 国民体育大会に対する意見と行動の変化 (第2報), 日本体育学会大会号, p.130, 1982.
- 9) 仲野隆士, 他; 国民体育大会の開催内定時期における開催地住民の意識: 5年後の宮城国体に対する宮城県柴田町住民の意識, 仙台大学紀要, 28 (1), pp.1-10, 1996.
- 10) 原田宗彦, 他; 国民体育大会に対する開催地住民の意識: 沖縄・京都・北海道の事例, 体育学研究, 37 (3), pp.305-313, 1992.
- 11) 赤荻裕敏, 村木美貴; 国民体育大会に伴う競技施設整備と施設運営に関する研究, 都市計画, 別冊, 都市計画論文, 41 (3), pp.559-564, 2006.